人新世を耕す

帯広畜産大学　筒木潔名誉教授

24

世界農業文明の盛衰
真逆な遺産残す西進と東進

土壌と農業が古代国家の成立要件の根幹だったことは中国の歴代皇帝が行った儀式「社稷壇（しゃしょくだん）」にも表現されている。社稷壇は北京の中山公園にあるが黄、黒、青、赤、白の五色の土が黄色を中心に配置し四方向に敷き詰められている。この五色の土は中央に鎮座する皇帝と四方の守護神、中国とその周辺の地域に分布する五色の土と五種類の穀物「五穀」を象徴している。

土の色の黄色は古代中国発祥の地である中原の黄色土、黒色はモンゴル・興安嶺を越えてシベリア低地に広がる草原土壌、青色は黄河・揚子江河口に広がる低地土壌、赤色は雲南を越えて亜熱帯に広がる強風化土壌、白色はタクラマカン砂漠から中央アジア乾燥地の砂漠土壌を示している（小崎隆「世界の土壌はいま―あなたと一緒に考えたい『国際土壌年』」、科学2015.11、岩波書店）。

五穀の色はキビ・アワが黄色、ソバが黒、ムギが青、タカキビ（モロコシ・コーリャン）が赤、コメとダイズが白にあてられている（井上直人「おいしい穀物の科学」講談社ブルーバックス、2014）。すなわち多様な土の上で多様な作物が栽培でき、人民が飢えないことが国家の理想とされてきた。

河川管理が最も重要

中国においては黄河中流域においてアワやキビなどの雑穀の栽培が1万年以上前に、揚子江（長江）中流域において稲の栽培が約1万年前に始まったと言われている。その後、農耕の広がりに伴い、大河川の氾濫に伴う水害や、河川上流の丘陵地での土壌侵食が起こり、歴代の王朝にとっては堤防の構築などの河川管理が最も重要な仕事となった。

しかしその反面、河川によって運ばれた土壌養分によって長期間にわたって農耕を続けることができた。なお中国では東北部の遼河流域で86